

インストール
ガイド

hp StorageWorks NAS 500s

製品バージョン : 1

初版 (2004 年 9 月)

製品番号 : 372609-191

本書では、HP StorageWorks NAS 500s の配備について説明します。



© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Hewlett-Packard Company は、本書についていかなる保証（商品性および特定の目的のための適合性に関する黙示の保証を含む）も与えるものではありません。Hewlett-Packard Company は、本書中の誤りに対して、また本書の供給、機能または使用に関連して生じた付随的損害、派生的損害または間接的損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護されている機密情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company の事前の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他の言語に翻訳することはできません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

Intel® および Celeron® は、米国における Intel Corporation の登録商標です。

Microsoft®, MS Windows®, Windows®, および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態で開催されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company 製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

Printed in the U.S.A

NAS 500s インストール ガイド

初版 (2004 年 9 月)

製品番号 : 372609-191

目次

本書について.....	5
対象読者.....	5
前提条件.....	5
参考資料.....	5
表記上の規則.....	6
本文中の記号.....	6
装置の記号.....	7
1 製品の概要	9
製品の定義および情報.....	9
サーバハードウェア機能.....	10
ソフトウェア機能.....	11
フロント パネル コンポーネント.....	12
リア パネル コンポーネント.....	13
製品の冗長性.....	14
ストレージ管理の概要.....	15
ストレージ管理の概要.....	15
物理ストレージ エlement.....	16
論理ストレージ エlement.....	17
ファイル システム エlement.....	17
ファイル共有Element.....	18
2 システム設定.....	19
設定の概要.....	19
ストレージの推奨事項.....	20
NAS 500s をネットワークに配備.....	20
IP ネットワークと設定要件.....	20
設定情報の収集.....	21
WebUI による設定.....	22
RapidLaunch 方式.....	22
手順.....	23
(ホスト名を使用した) リモート ブラウザ方式.....	26
手順.....	26

直接接続方式	27
手順	28
ラピッド スタートアップ ウィザードによる設定	29
手順	30
ディスク パーティションと RAID 設定	32
ハード ディスク ドライブの交換	34
障害が起きたコンポーネントの交換	35
ファイル共有の作成	36
基本セットアップの完了	37
システム設定の完了	37
A 規定と準拠に関するご注意	39
Federal Communications Commission Notice	39
Class A Equipment.	40
Class B Equipment.	40
Modifications	41
Cables.	41
Declaration of Conformity for products marked with the FCC logo - United States only	41
Canadian Notice (Avis Canadien)	42
Class A Equipment.	42
Class B Equipment.	42
European Union Notice	42
BSMI Notice	43
Japanese Notice	43
Japanese power cord notice	43
バッテリーの交換に関する注意	44
Taiwan Battery Recycling Notice	44
B 静電気対策	45
アースの方法	46
索引	47

対象読者

本書は、次の項目についての知識を持つ技術者を対象としています。

- Microsoft® の管理手順
- ファイル共有プロトコル

前提条件

NAS サーバをセットアップする前に、上記の「対象読者」で述べられた項目に関する補足資料を準備することをお勧めします。

参考資料

本書の他に、以下の対応する資料も参照してください。

- 『HP StorageWorks NAS 1500s/500s 管理者ガイド』
- 『HP StorageWorks NAS 500s リリース ノート』

表記上の規則

表 1: 表記上の規則

項目	表記法
クロスリファレンス リンク	青の語句: 図 1
ファイル名、アプリケーション名、および強調すべき語句	太字 、または括弧 (「」) で表示
キー名、フィールド名、メニュー項目、ボタン名、ダイアログボックス名	括弧 ([]) で表示
ユーザー入力、コマンド名、ディレクトリ名、およびシステム応答 (出力およびメッセージ)	Monospace フォント コマンド名は大文字、小文字の区別のない場合は、大文字の monospace フォントで表示
変数	イタリック体の <i>monospace</i> フォント
Web サイト アドレス	下線付きの sans serif フォント: http://www.hp.com

本文中の記号

本書に使用されている記号はそれぞれ以下の意味を表します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

注記: 解説、補足または役に立つ情報を示します。

装置の記号

ハードウェアに貼付されている記号は、以下の意味を表しています。



これらの記号が貼付された装置の表面または内部部品に触れると、感電の危険があることを示します。修理はすべて、HP のサポート窓口に依頼してください。

警告： 感電防止のため、カバーは開けないでください。



これらの記号が貼付された RJ-45 ソケットは、ネットワークインターフェース接続を示します。

警告： 感電、火災、装置の損傷を防止するため、電話や電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないでください。



これらの記号が貼付された装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告： 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



これらの記号が貼付された電源やシステムは、装置の電源が複数あることを示します。

警告： 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



これらの記号が貼付された製品および機械は、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示します。

警告： けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

製品の概要

1

HP StorageWorks NAS 500s はファイル サーバ専用設計されており、システム環境の拡張に合わせてパフォーマンスを最適化します。

NAS 500s では、次の 3 つのモデルが提供されています。

- 320 GB
- 640 GB
- 1TB

製品の定義および情報

NAS 500s は、リモート オフィスや小・中規模ビジネス向け NAS ソリューションで、信頼性の高い性能、管理機能、フォールト トレランスを提供します。

NAS 500s は出荷時、デフォルト システム設定で構成されていて、NAS オペレーティング システム (OS) がインストールされています。

サーバハードウェア機能

表 2: サーバハードウェア機能

機能	320 GB サーバ	640 GB サーバ	1 TB サーバ
プロセッサ	Intel® Celeron® 2.8 GHz、533 MHz FSB	Intel Pentium 4 2.8 GHz、800 MHz FSB	Intel Pentium 4 3.2 GHz、800 MHz FSB
メモリ	256 MB 200 MHz PC3200 DDR SDRAM	512 MB 200 MHz PC3200 DDR SDRAM	1 GB 200 MHz PC3200 DDR SDRAM
SATA 非 ホットプ ラグ対応 ハード ディスク ドライブ	(4) 80 GB 7200 rpm	(4) 160 GB 7200 rpm	(4) 250 GB 7200 rpm
すべてのモデルは、			
(1) 66/64 ビット PCI-X スロット対応			
(2) 33/32 ビット PCI スロット対応			
66/64 ビット スロット内 Adaptec 2410SA SATA RAID コントローラ			
(1) 10/100/1000 WOL (Wake on LAN) ネットワーク インターフェース コントローラ (NIC) 内蔵			
HP シングル チャネル U320 SCSI HBA			
CD-RW/DVD-ROM コンボ ドライブ			
2 USB ポート			

Adaptec 2410SA は、先読みまたはライト バックに使用される キャッシュ メモリを含んでいます。ライト バック キャッシュを有効にすることでオペレーティングシステムを、実際にはオンボード メモリにのみ書き込みが行われているにもかかわらず、ディスクに書き込みが行われたものと仮定させ、パフォーマンスを向上します。これで大幅にパフォーマンスが向上する一方、ディスクではなくメモリに対する書き込みの際に、装置に電源障害が発生すると、データが失われることがあります。キャッシュを有効にして使用する場合は、データ損失が起こらないようにするために UPS を NAS サーバに取り付けることをお勧めします。キャッシュメモリは、Adaptec Storage Manager ユーティリティ (『管理者ガイド』参照) または ROM ベースの設定を通して調整します。

ソフトウェア機能

NAS 500s は、以下の高度なソフトウェア機能を備えているか、またはサポートしています。

- Windows® Storage Server 2003
- Microsoft Services for Macintosh
- Microsoft Services for NetWare
- Microsoft Services for NFS
- NAS Web ベース ユーザー インターフェース (WebUI)
- 共有フォルダのシャドウ コピー (VSS)
- Storage Manager 2.0 for Server Appliance
- サポートされているオプションのサード パーティ ソフトウェア (インストールされてはいません)
 - バックアップ ソフトウェア
 - マネジメント ソフトウェア
 - クォータ管理ソフトウェア
 - ウイルス監視ソフトウェア

推奨されるソフトウェア製品については、以下の HP の Web サイトの QuickSpecs を参照してください。

<http://h18000.www1.hp.com/products/storageworks/nas/supportedsoftware.html> (英語)

フロント パネル コンポーネント

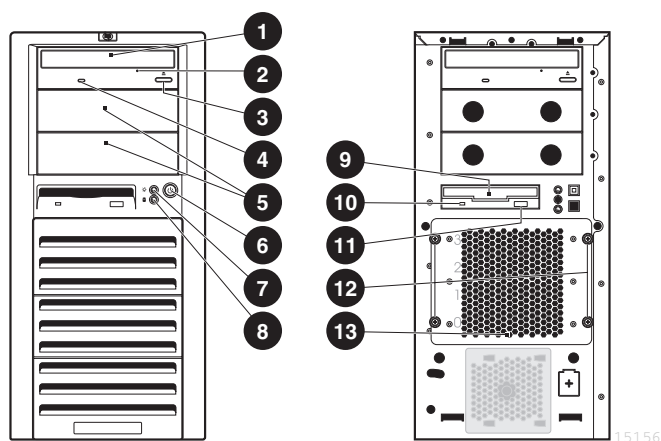
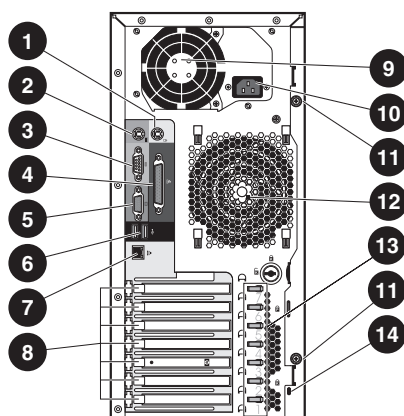


図 1: フロント パネル コンポーネント

番号	説明
①	CD-RW/DVD-ROM ドライブ
②	CD-RW/DVD-ROM ドライブ メカニカル イジェクト ホール
③	CD-RW/DVD-ROM ドライブ イジェクト ボタン
④	CD-RW/DVD-ROM ドライブ動作インジケータ
⑤	フルハイトの共通ベイ
⑥	電源ボタン
⑦	電源インジケータ
⑧	ドライブ動作インジケータ
⑨	フロッピー ディスク ドライブ
⑩	FDD 動作インジケータ
⑪	FDD イジェクト ボタン
⑫	HDD (ハード ディスク ドライブ) ケージ用トルクス ネジ
⑬	HDD ケージ

リア パネル コンポーネント



15157

図 2: リア パネル コンポーネント

番号	説明
①	PS/2 マウス ポート (緑色)
②	PS/2 キーボード ポート (紫色)
③	シリアル ポート (青緑色)
④	パラレル ポート (赤紫色)
⑤	モニター ポート (青色)
⑥	USB ポート (黒色)
⑦	LAN ポート (RJ-45)
⑧	PCI スロット (3) 66/64 ビット (2) 33/32 ビット
⑨	PSU ファン
⑩	電源供給ケーブル ソケット
⑪	取り外し可能なレフト サイド カバー用つまみネジ
⑫	システム ファン
⑬	PCI スロット カバー用固定クリップ
⑭	Kensington ロック

製品の冗長性

NAS 500s は、ネットワーク向けのファイル サービス タスクを専用に実行するように設計されており、業界標準のコンポーネントを使用することによって信頼性を保証しています。

ハードウェアにより実現されている RAID (Redundant Array of Independent Drives) やリモート管理機能など、その他の業界標準機能を使用することにより、さらに NAS 500s の全般的な信頼性を高めることができます。

冗長性と信頼性を保証するために、NAS 500s にインストールされたハードディスクドライブは、1 台のドライブの障害によってデータが失われたり、システム障害が発生したりすることがないように構成されています。NAS 500s はデュアルブート機能を備えています。電源が入れられると、NAS 500s はプライマリ OS またはセカンダリ リカバリ OS のいずれかを使用してブートすることができます。

ストレージ管理の概要

この項では、NAS ストレージ構造を構成するコンポーネントの概要を説明します。コンポーネントと、コンポーネント間の関係について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。



注意：NAS 管理者は、必ず、ストレージ管理および Disk Manager について説明しているこの項に目を通してください。この項は、HP StorageWorks NAS デバイスを正しく使用するための基礎となる概念と要件を説明しています。この項と『管理者ガイド』のストレージ管理についての該当する項に目を通さないで作業すると、データの消失やファイルの破壊が発生することがあります。

ストレージ管理の概要

ストレージは、次の 4 つの部分に大きくわかれます。

- 物理ストレージ エlement
- 論理ストレージ エlement
- ファイル システム エlement
- ファイル共有エlement

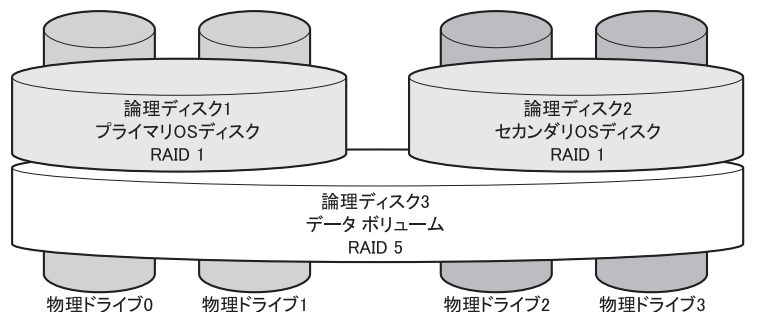
これらの各エlementは、1 つ前のレベルのエlementで構成されています。

物理ストレージ エLEMENT

NAS 500s の最下位のストレージ管理は物理ドライブで行います。NAS 500s には、それぞれ 4 台の非ホットプラグ対応ハードディスクドライブを搭載しています。ドライブはデフォルトでは以下のように、SATA コントローラにおいて 3 つの論理ディスクで構成されています。

表 3: ハード ディスク ドライブ構成

論理ディスク	RAID	サイズ / 分割
1	RAID 1	物理ドライブ 0、1 に 9GB
2	RAID 1	物理ドライブ 2、3 に 9GB
3	RAID 5	物理ドライブの空き容量、4 台の物理ドライブを割り当て



15133

図 3: ハードウェア RAID

注記: Adaptec Storage Manager では、論理ディスクは 1、2 および 3 とラベル付けされています。Disk Manager では、論理ディスクは 0、1 および 2 と表示されています。

プライマリ OS 論理ドライブは、ディスク 0 に存在し、ディスク 1 にミラー化されています。一方、セカンダリ OS 論理ドライブは、ディスク 2 に存在し、ディスク 3 にミラー化されています。ひとつのディスクにエラーが発生すると、システムはミラーディスクで機能します。プライマリ OS に障害が発生し、ブート

不能になった場合には、セカンダリ OS を使用してデータをバックアップしてから、クイック リストア DVD を使って工場出荷時の状態にシステムを復元することができます。

データボリュームは、4 台のドライブすべてにまたがるベーシック パーティション ベースのハードウェア RAID5 として設定されています。これにより、ドライブの障害時の冗長性と、データ ボリュームがプライマリ OS とセカンダリ OS の両方からアクセス可能なことが保証されます。

詳細な情報につきましては、『管理者ガイド』を参照してください。

論理ストレージ エLEMENT

NAS 500s は、Microsoft Disk Manager (DM) を使用してファイル システムに提供される各種のディスクを管理します。Disk Manager には、ベーシック ディスクとダイナミック ディスクの 2 つのタイプのディスク管理方式があります。これらのディスク タイプはそれぞれ、異なる種類の管理を可能にする特別な機能を備えています。NAS 500s は、物理ストレージ レイヤから 3 台のディスクすべてを使用します。2 台の RAID1 ディスクを使って、プライマリおよびセカンダリ OS ベーシック パーティションを格納します。1 台の RAID5 ディスクは、ベーシック パーティションにデータボリュームを格納します。

ファイル システム エLEMENT

ファイル システム エLEMENT は、各論理ストレージ ELEMENT (パーティション、論理ディスク、およびボリューム) の下に作成されたフォルダおよびサブフォルダで構成されます。フォルダは、使用できるファイル システムをさらに細かく分割するために使用され、情報スペースの管理におけるもう 1 つの単位を提供します。各フォルダは、ネットワーク アクセスに使用できる固有の権限および共有名を持つことができます。フォルダは、個々のユーザー、グループ、プロジェクトなどを対象に作成できます。ファイル システム ELEMENT について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

ファイル共有エレメント

NAS 500s は、DFS、NFS、FTP、HTTP、および Microsoft SMB などの各種ファイル共有プロトコルをサポートしています。各フォルダまたは論理ストレージエレメントで、特定のネットワーク名を使用してさまざまなファイル共有プロトコルを有効にすることができるため、ネットワーク経由でさまざまなクライアントにアクセスできます。これらの共有には、各ファイル共有プロトコル内で、ユーザーまたはユーザーのグループに基づいて権限を付与することができます。ファイル共有エレメントについて詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

システム設定

2

設定を開始する前に、NAS 500s のインストールが完了し、すべてのケーブルやコードが接続されていることを確認してください。

作業を始める前に添付の資料をよくお読みください。関連資料は次のとおりです。

- 『HP StorageWorks NAS 1500s/500s 管理者ガイド』
- 『HP StorageWorks NAS 500s リリース ノート』
必要な場合は、次の Web サイトで参照してください。
<http://www.hp.com/go/nas>（英語）
<http://www.hp.com/jp/manual>（日本語）

設定の概要

次の手順で NAS 500s を設定してください。

1. 本書の第 2 章に従って NAS デバイスを設定します。
2. **（推奨）** 管理をやすくするために、NAS デバイスを Active Directory または Windows NT® 4.0 ドメインに配置します。
3. **（任意）** NFS 共有、NCP や AppleTalk のようなプロトコルを有効にします。この手順の詳細については、『管理者ガイド』を参照してください。
4. **（任意）** 前の手順で触れたプロトコルに対応する共有を作成します。共有にアクセスする権利を設定します。
5. 『管理者ガイド』の残りの部分を読みます。

注記： デフォルトでは、データドライブ (F:) は設定されていて、使用できるようになっています。

ストレージの推奨事項

ハード ディスク ドライブ障害によるデータの損失を防ぐために、フォールト トレランスを念頭においてストレージを設定する必要があります。HP では、RAID 5 設定に従うことをお勧めします。

NAS 500s をネットワークに配備

デフォルトの出荷時設定では、10/100/1000 ネットワーク インターフェースコントローラ (NIC) のポートをクライアント データ アクセス用に備えています。このデータ ポートによって、製品に付属の WebUI にアクセスすることもできます。管理手順のほとんどは、WebUI から実行することができます。

IP ネットワークと設定要件

- NAS 500s と同じネットワークセグメント上の、Microsoft Internet Explorer 5.5 (またはそれ以上) が動作する Windows ベースの PC。NAS デバイスのセットアップと管理に使用。
- クライアント サブネットに対する追加の Ethernet 接続ポート (注文したネットワーク オプションによる)

設定情報の収集

ホスト名を選択して、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）構成または非 DHCP 構成のいずれかの NAS デバイスの初期設定に必要な一般情報を収集します。この情報は、初期設定中に指定するよう要求されます（表 4 を参照）。NAS デバイスの設定を始める前に、内容をよく理解しておいてください。

表 4: 設定情報

パート A: DHCP および非 DHCP のすべての構成			
サーバ ホスト名:			
パート B: 非 DHCP 構成のみ			
DNS サーバ	IP アドレス		
1			
2			
3			
NAS NIC ポート *	IP アドレス	サブネット マスク	ゲートウェ イ アドレス
NIC 1			
* 追加の NIC カードがインストールされる場合、各 Ethernet ポートには別々のサブネットを設定する必要があります。			
パート C: SNMP 情報（オプション）			
トラップ送信先（IP アドレス）マネージャ クライアント:			
マネジメントトラップコミュニティストリング:			
システムマネジメントコミュニティストリング:			

WebUI による設定

WebUI は、グラフィカルで使いやすく、設定に必要な情報を収集できるように設計されています。WebUI には、以下の 3 つの方法によってアクセスできます。

- RapidLaunch 方式
- （ホスト名を使用した）リモート ブラウザ方式
- 直接接続方式

注記： このシステムは、WebUI から、またはリモート デスクトップ や Windows Server 2003 デスクトップから手動で設定することができます。

注記： NAS 500s は、モニター、キーボード、およびマウスなしで配備されるように設計されています。これらのポートは利用可能で、使用されている場合は、NAS デバイスでサポートされます。

RapidLaunch 方式

WebUI 設定アプリケーションを実行するには、以下の品目が必要です。

- NAS 500s と同じネットワーク セグメント上の、Internet Explorer 5.5（またはそれ以上）がインストールされた Windows ベースの PC
- RapidLaunch CD

手順

以下の手順に従って、NAS 500s を初期設定します。



注意：1～5の手順が完了するまで、NAS デバイスに電源を入れないでください。

1. NAS 500s のネットワーク ポートと対応するネットワーク セグメントに Ethernet ケーブルを接続します。NAS 500s 上のネットワーク ポートの位置については、[13 ページの図 2](#)を参照してください。
2. Windows ベースの PC クライアントが、NAS 500s と同じサブネットに接続されていることを確認します。
3. PC の電源を入れ、オペレーティング システムのロードが完了するまで待ちます。
4. RapidLaunch CD を PC の CD-ROM ドライブに挿入します。
5. RapidLaunch CD は自動的に実行されます。プログラムが自動的に起動しない場合は、次の手順に従ってください。
 - a. [**スタート**] をクリックします。
 - b. Windows タスクバーの [**ファイル名を指定して実行**] を選択します。
 - c. 次のとおりに入力します。
`{CD ROM drive}:¥setup.exe`
インターフェースが開始するのを待ちます。
6. NAS デバイスに移動し、電源を入れます。ネットワーク上で NAS デバイスがアクセス可能になるまで、数分かかります。
7. PC に戻ります。[図 4](#) に示すように、[**表示**] ドロップダウンリストから [**NAS デバイス**] を選択し、RapidLaunch にネットワーク上のすべての NAS デバイスを表示させます。

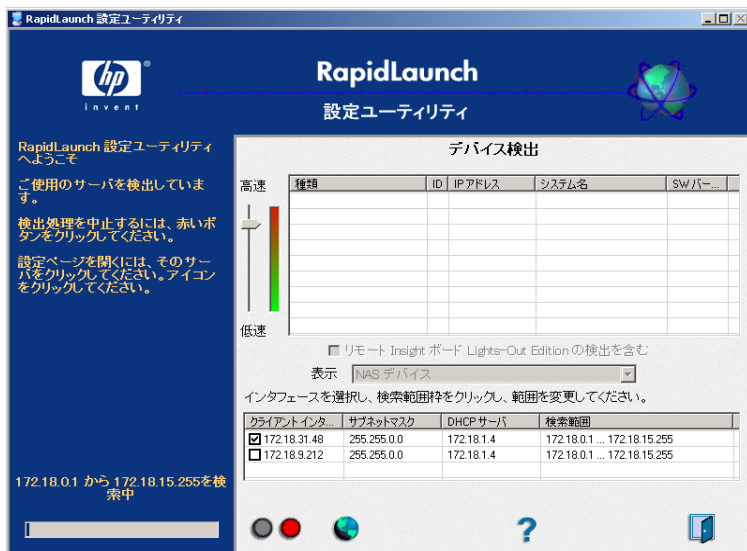


図 4: [RapidLaunch デバイス検出] 画面

- ネットワーク上で検出されたすべての NAS デバイスが図 5 のように表示されます。ネットワーク上で NAS デバイスを検索するのに数分かかる場合があります。

注記： RapidLaunch ユーティリティは、ネットワーク上の新しいデバイスを検索し、定期的に更新します。ブラウザの [更新] ボタンを選択して、デバイス リストを手動で更新できます。



図 5: [RapidLaunch デバイス検出] 画面

9. デバイス リストから、未設定 ([UNCONFIGURED]) の HP StorageWorks NAS 500s デバイスを選択します。1 つ以上表示された場合は、該当セルをクリックして[システム名]列のシリアル番号にチェックします。

注記： RapidLaunch ユーティリティのバージョン 2.7.134 は、NAS 1200s として NAS 500s を表示します。

10. WebUI にログインします。図 7 に示すように、ターゲット HP StorageWorks NAS デバイス上で、WebUI 設定アプリケーション (ラピッド スタートアップ) が起動します。

注記： WebUI のデフォルト ログイン名は administrator で、パスワードは hpinvent です。WebUI は、ローカルの管理者のアカウントまたは管理者権限のあるアカウントと同じログインを使用します。

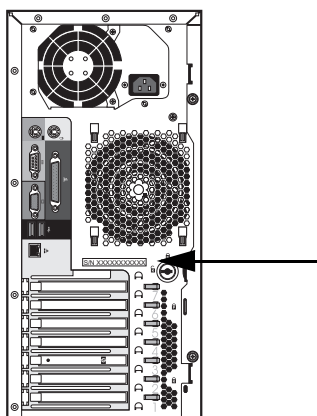
11. 29 ページの「ラピッド スタートアップ ウィザードによる設定」を参照し、設定手順を完了します。

(ホスト名を使用した) リモート ブラウザ方式

NAS 500s は、ネットワーク ポート上で DHCP が使用可能な状態で出荷されます。DHCP が使用可能なネットワークにシステムが配備され、デバイスのシリアル番号がわかっている場合、そのネットワーク上の Internet Explorer 5.5（またはそれ以上）が動作するクライアントからデバイスの 3202 ポートを使用してデバイスにアクセスすることができます。

WebUI 設定アプリケーションを実行するには、以下の品目が必要です。

- NAS 500s と同じセグメント上の、Internet Explorer 5.5（またはそれ以上）がインストールされた Windows ベースの PC
- DHCP が使用可能なネットワーク
- 装置の背面にある、NAS 500s のシリアル番号



15158

図 6: シリアル番号の位置

手順

以下の手順に従って、NAS 500s を初期設定します。

1. NAS 500s の各ネットワーク ポートと対応するネットワーク セグメントに Ethernet ケーブルを接続します。NAS 500s のネットワーク ポートの位置については、[13 ページの図 2](#)を参照してください。

2. NAS デバイスに移動し、電源を入れます。ネットワーク上で NAS デバイスがアクセス可能になるまで、数分かかります。

注記： NAS オペレーティング システムが起動すると、NAS デバイスが応答します。

3. PC 上で Internet Explorer を開きます。「https://」、NAS 500s のシリアル番号、ハイフン (-)、「:3202」の順に入力します。[Enter] キーを押します。

例 : https://D4059ABC3433-:3202

注記： サーバ名がすでに設定されている場合は、シリアル番号ではなく、サーバ名を入力します。

4. WebUI にログインします。図 7 に示すように、ターゲット HP StorageWorks NAS デバイス上で、WebUI 設定アプリケーション（ラピッド スタートアップ）が起動します。

注記： WebUI のデフォルト ログイン名は administrator で、パスワードは hpinvent です。WebUI は、ローカルの管理者のアカウントまたは管理者権限のあるアカウントと同じログインを使用します。

5. 29 ページの「ラピッド スタートアップ ウィザードによる設定」を参照し、設定手順を完了します。

直接接続方式

NAS 500s にモニタ、マウス、キーボードを直接接続して、WebUI にアクセスすることができます。

手順

以下の手順に従って、NAS 500s を初期設定します。

1. NAS 500s のネットワーク ポートと対応するネットワーク セグメントに Ethernet ケーブルを接続します。
2. モニタ、マウス、キーボードを NAS 500s のリア パネルのコネクタに直接接続します。NAS 500s のコネクタの位置については、[13 ページの図 2](#) を参照してください。
3. NAS デバイスに電源を入れます。
4. WebUI のユーザー名とパスワードを使ってログインします。

注記： WebUI のデフォルト ログイン名は administrator で、パスワードは hpinvent です。WebUI は、ローカルの管理者のアカウントまたは管理者権限のあるアカウントと同じログインを使用します。

5. [図 7](#) に示すように、Internet Explorer を開き、ターゲット NAS デバイス上で、WebUI 設定アプリケーション（ラピッド スタートアップ）を起動します。WebUI が起動しない場合、「LocalHost」に接続し、WebUI にログインしてください。
6. [29 ページの「ラピッド スタートアップ ウィザードによる設定」](#)を参照し、設定手順を完了します。

ラピッド スタートアップ ウィザードによる設定

このユーティリティの設定手順は次のとおりです。

Internet Explorer ウィンドウを開き、図 7 に示すように WebUI がラピッド スタートアップ ウィザードになっていることを確認してください。

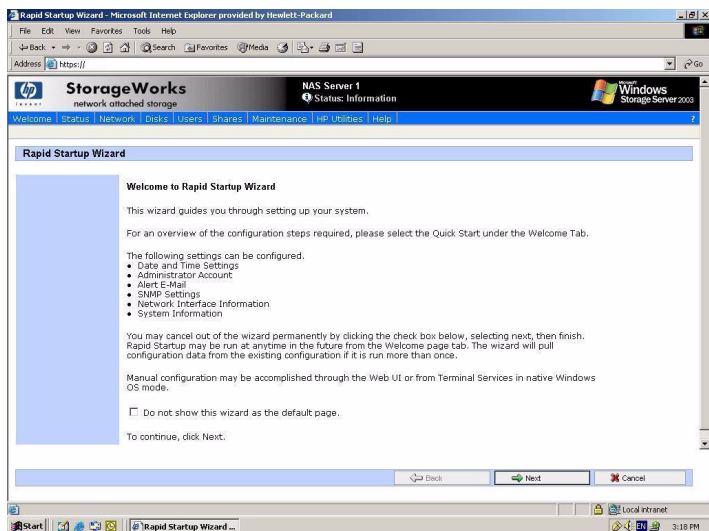


図 7: [ラピッド スタートアップ ウィザード] 画面

注記: ラピッド スタートアップ ウィザードは、ウィザードを完了するか、[デフォルト ページとしてこのウィザードを表示しない。] チェックボックスを選択しない限り、デフォルトで表示されるページです。

手順

表 4 の情報を参照して、連続して表示される各画面で入力を行います。

1. [次へ] を選択し、ラピッド スタートアップ ウィザードを開始します。(ウィザードはシステムについての情報を収集し、フィールドを埋めるため、少し時間がかかる場合があります。)
2. [日付と時刻の設定] を設定します。[次へ] をクリックします。
3. [管理者アカウント] を設定します。[次へ] をクリックします。
4. [通知 電子メール] を設定します。[次へ] をクリックします。
5. [SNMP 設定] を設定します。[次へ] をクリックします。
6. 両方の NIC に対して [ネットワーク インターフェイス情報] の設定をします。[次へ] をクリックします。
7. [システム情報] を設定します。[次へ] をクリックします。
8. 図 8 に示すような設定の確認画面が表示されたら、情報が正しいことを確認します。

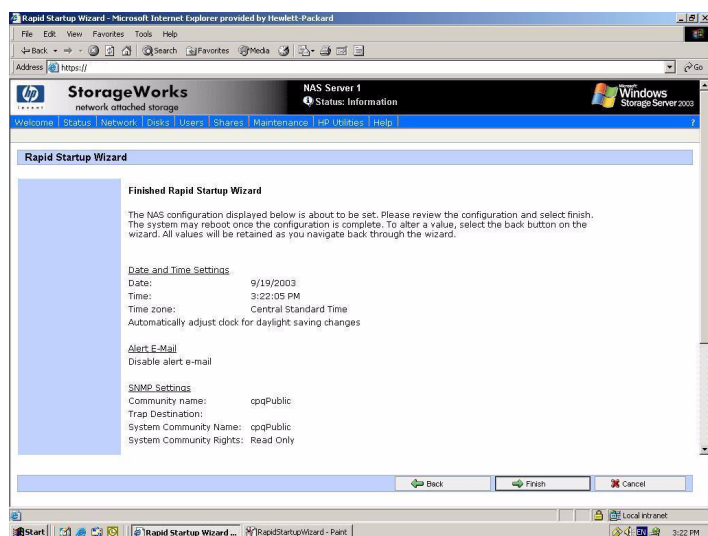


図 8: ラピッド スタートアップ設定確認画面

9. **[完了]**をクリックしてラピッド スタートアップを終了します。再起動するよう要求された場合、ラピッド スタートアップは、再起動中であることを示すメッセージを表示し、設定情報が有効になります。
ブラウザは **[状態]** ページに戻ります。デバイスが再起動された場合、更新に数分かかることがあります。

注記：ラピッド スタートアップ ウィザードが完了すると、**[開始]** ページがデフォルト ページとなります。

ディスク パーティションと RAID 設定

Adaptec 2410SA SATA RAID コントローラを使用して、500s 内の 4 台のハード ディスク ドライブに、ハードウェア RAID フォールト トレランスを設定します。

- プライマリ OS 論理ドライブは、9 GB RAID 1 ミラー スpanning ドライブ 0 と 1 として設定されています。
- セカンダリ OS 論理ドライブは、9 GB RAID 1 ミラー スpanning ドライブ 2 と 3 として設定されています。
- データ ボリュームは、4 台のドライブ全体にわたる領域を使用した RAID 5 ボリュームとして設定されます。

表 5: ハード ディスク ドライブの RAID 設定

ハード ディスク ドライブ 0	パーティション C: 9GB プライマリ OS	パーティション F: RAID-5 のユーザー データ
ハード ディスク ドライブ 1	パーティション C: 9GB プライマリ OS ミラー	パーティション F: RAID-5 のユーザー データ
ハード ディスク ドライブ 2	パーティション D: 9GB バックアップ OS	パーティション F: RAID-5 のユーザー データ
ハード ディスク ドライブ 3	パーティション D: 9GB バックアップ OS ミラー	パーティション F: RAID-5 のユーザー データ

表 6: 論理ドライブの RAID 設定

論理ドライブ 1	パーティション C: 9GB プライマリ OS - RAID 1 ミラー スpanning 物理ドライブ 0 および 1
論理ドライブ 2	パーティション D: 9GB セカンダリ OS - RAID 1 ミラー スpanning 物理ドライブ 2 および 3
論理ドライブ 3	パーティション F: 残りのディスク領域を使用する データ ボリューム - RAID 5 ボリューム spanning 物理ドライブ 0、1、2、3

注記： Adaptec Storage Manager では、論理ディスクは 1、2、3 と呼ばれています。Disk Manager では、論理ディスクは 0、1、2 と表示されます。データ ボリュームのデフォルト設定は、ディスク管理ユーティリティを使用して変更できます。詳細については『管理者ガイド』を参照してください。

BIOS は、次のデフォルトのブート順をサポートしています。

1. CD-RW/DVD-ROM
2. HDD 0、1、2

注記： これは SATA RAID コントローラでは論理ドライブ 1、2、3 になります。

3. PXE（ネットワークの起動）

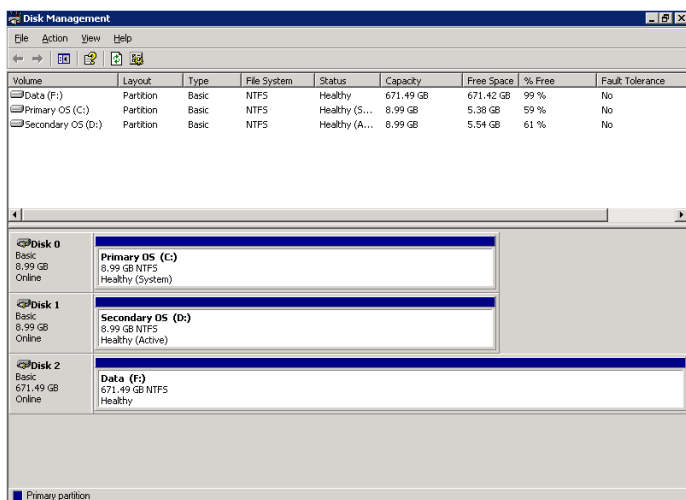


図 9: ディスク管理、パーティション

通常環境では、NAS 500s はプライマリ OS 論理ドライブから起動します。システムがドライブ障害を起こした場合、Adaptec 2410SA はドライブ障害をユーザーに知らせるために警告音を出します。

- 1 台目のドライブが障害を起こした場合、OS は感知しません。
- 2 台目のドライブが障害を起こすと、データ ボリュームは消失するので、バックアップから復元する必要があります。

プライマリ OS のシステムファイルが壊れる、レジストリが壊れる、起動中にシステムがハングするといった障害があると、システムはセカンダリ OS から起動する必要があります。次の手順に従って、セカンダリ OS からシステムを起動します。

1. 装置の電源を切ります。
2. モニター、キーボード、マウスを装置の背面に直接接続します。
3. 装置に電源を入れます。
4. 起動の際、セカンダリ パーティションを使用する選択をします。

ユーザーは、データのバックアップをとり、クイック リストア DVD を使ってできるだけ早く工場出荷時の状態にシステムを復元する必要があります。

ハード ディスク ドライブの交換

警告音に加えて、ハード ディスク ドライブに障害が起きると、Adaptec Storage Manager はイベントログメッセージも作成します。次の手順に従って、一台のハード ディスク ドライブを交換します。

1. 装置をシャットダウンします。
2. サイド パネルを取り外します。
3. ベゼルを取り外します。
4. ハード ディスク ドライブからケーブルを取り外します。
ケーブルを抜く前にラベルなどで明示しておいてください。
ドライブ 0 はドライブ ケージの底面にあり、ドライブ 3 は上面にあります。
5. ドライブ ケージの前からネジを取り外し、装置から取り外します。
6. 障害の起きたドライブからネジを取り外します。
7. 新しいドライブ、ネジ、およびケーブルを取り付けます。

8. ドライブ ケージを再度挿入し、ネジを再度取り付けます。
9. ケーブルを差し込みます。
10. ベゼルを取り付けます。
11. サイド パネルを取り付けます。
12. 装置を起動すると、ドライブは自動的に再構築されます。システムは再構築中に使用することができます。

障害が起きたコンポーネントの交換

トラブルシューティングや障害が起きたコンポーネントの交換についての情報は、<http://www.hp.com/go/proliant>（英語）にある『HP ProLiant ML110 Server Operations and Maintenance Guide』を参照してください。

ファイル共有の作成

ストレージ スペースがセットアップされると、ボリューム全体またはボリューム上の特定のフォルダを選択し、ネットワーク ボリュームとしてスペースを指定することにより、ファイル共有が作成されます。このスペースは、ネットワーク上のクライアント コンピュータのグループに対して利用可能になります。クライアント コンピュータは、ファイルおよびフォルダを格納するためにディスク スペースを使用し、さまざまなファイル共有プロトコルを介してこのスペースにアクセスします。

1. [共有] タブをクリックし、[共有] を選択します。
2. [フォルダ] をクリックして、以前作成したボリューム上に新しいフォルダを作成します。あるいは既存のフォルダを使用します。
 - a. ボリュームを選択し、[フォルダの管理]、[新規 ...] の順にクリックします。
 - b. フォルダ名を入力し、[OK] をクリックします。
3. [共有] をクリックし、ネットワークの共有名およびフォルダの場所を指定して、ファイル共有を作成します。
 - a. [新規 ...] をクリックし、名前とパスを入力します。

注記： ディレクトリが存在しない場合、[フォルダを作成します] をチェックします。

- b. クライアント タイプを設定し、共有にアクセスを許可するクライアント コンピュータのタイプを指定します。
 - c. [全般] リストの下から正しいクライアント共有方法をクリックし、共有に対するユーザーおよびグループの許可を設定します。

基本セットアップの完了

これで、HP StorageWorks NAS システムの基本設定は完了です。しかしコンピューティング環境によっては、以下に記載されているように特別な設定および構成が必要な場合があります。

システム設定の完了

これらのタスクの大部分は、HP StorageWorks NAS WebUI を使って完了させることができます。設定作業のすべての手順については、『HP StorageWorks NAS 1500s/500s 管理者ガイド』を参照してください。

- データ ボリュームのある時点でのスナップショットを作成するためにシャドウ コピーを設定する。
- Microsoft ファイル複製サービスから、データ リプリケーション ソフトウェアを設定する。
- NAS システムを 1 つのドメインに置く（推奨）。
- スペース使用クォータを有効にし、設定する。
- DFS（分散ファイルシステム）を設定、または NAS システムの共有を既存の DFS 構造に公開する。
- 追加のプロトコルを有効にし、関連するファイル共有を作成する。
- システム、アプリケーション、セキュリティ イベントのロギングを調整する。
- バックアップ、アンチウイルス、モニタリング エージェントなどの、サード パーティ ソフトウェアを追加でインストールする。
- UNIX ユーザーおよびグループ マッピングを設定する。
- システムを製品化する前に、すべての NAS システム バックアップを作成し、確認する。

規定と準拠に関する ご注意



Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (personal computers, for example). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows which class (A or B) the equipment falls into. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. Once the class of the device is determined, refer to the following corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Hewlett-Packard Company may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Declaration of Conformity for products marked with the FCC logo - United States only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

1-800- 652-6672

For questions regarding this FCC declaration, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

(281) 514-3333

To identify this product, refer to the Part, Series, or Model number found on the product.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice



Products bearing the CE marking comply with the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community and if this product has telecommunication functionality, the R&TTE Directive (1999/5/EC).

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in parentheses are the equivalent international standards and regulations):

- EN 55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11) - Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2) - Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3) - Power Line Flicker
- EN 60950 (IEC 60950) - Product Safety

BSMI Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

Japanese Notice

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読み下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

Japanese power cord notice

製品には、同梱された電源コードをお使い下さい。
同梱された電源コードは、他の製品では使用出来ません。

バッテリーの交換に関する注意



警告：コンピュータは内部に、リチウム二酸化マンガン、五酸化バナジウム、あるいはアルカリ バッテリー パックを含んでおり、取り扱いを誤ると、火災や火傷などの危険がありますので、次の点に注意してください。

- バッテリーを充電しないでください。
- 60° C を超える温度で使用しないでください。
- 分解したり、つぶしたり、穴を開けたりしないでください。火や水の中に捨てないでください。



バッテリーやバッテリー パックは家庭用ごみとして捨てないでください。公共の収集システムを利用するか、HP のサポート窓口にお返してください。

バッテリーの交換や廃棄に関する詳しい情報については、HP のサポート窓口までお問い合わせください。

Taiwan Battery Recycling Notice



The Taiwan EPA requires dry battery manufacturing or importing firms in accordance with Article 15 of the Waste Disposal Act to indicate the recovery marks on the batteries used in sales, giveaway or promotion. Contact a qualified Taiwanese recycler for proper battery disposal.

静電気対策

B

システムのセットアップ時および部品の取り扱い時には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずアースされている面にケースごと置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品および機材に触れるときには、常に自分の身体に対して適切なアース対策を行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうちの1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされている作業台またはコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1\text{M}\Omega \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先または足全体にアースバンドを付けます。導電性または静電気が伝わる恐れのある床の場合、両足にバンドを付けます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットが付いた、携帯式作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、HP のサポート窓口にお問い合わせください。

注記： 静電気対策や製品のインストールについて詳しくは、HP のサポート窓口にお問い合わせください。

索引

D

DHCP (dynamic host configuration protocol)
定義 21
Dynamic Host Configuration Protocol
「DHCP」を参照 21

E

Ethernet ポート
設定 21
European Union Notice 42

L

LocalHost 28

N

NAS 1500s
セットアップと設定の概要 19
ソフトウェア機能 11
定義 10
ネットワークに配備 20

R

RapidLaunch CD
設定に使用 23
[RapidLaunch デバイス検出] 画面,
図 24, 25

S

SNMP 設定 30

W

WebUI 設定
RapidLaunch 方式 22

直接接続方式 27
リモート ブラウザ方式 26

か

完了
システム設定 37

き

記号, 装置 7
記号, 本文中 6
機能
冗長性 14
ソフトウェア 11
ハードウェア 10
基本セットアップ 37
許可
グループ 36
ユーザー 36

く

クォータ 37
クライアント タイプ 36

け

警告
装置の記号 7

こ

コンポーネント
交換 35

さ

作成
ファイル共有 35, 36
参考資料 5

し

システム情報 [30](#)
シャドウ コピー [37](#)
障害が起きたコンポーネントの交換
[35](#)
初期設定 [19](#)
初期設定前 [20](#)
自動検出 [24](#)
冗長性 [14](#)

す

ストレージ管理の概要 [15](#)
ストレージ管理
 ファイル システム エlement
 [17](#)
 ファイル共有Element [18](#)
 論理ストレージ Element [17](#)
ストレージ管理とバーチャル リブ
 リケータ [15](#)
ストレージの設定 [36](#)

せ

製品の定義 [9](#)
設定
 「WebUI 設定」も参照 [22](#)
 情報の収集 [21](#)
 タスク, 初期設定前 [19](#)
 手順 [19](#)
セットアップ, 関連資料 [19](#)
セットアップと設定, NAS 1500s [19](#)
前提条件 [5](#)

そ

装置の記号 [7](#)

た

対象読者 [5](#)

ち

注意
 データの消失 [15](#)
 ファイルの破壊 [15](#)

つ

[通知 電子メール] の設定 [30](#)

て

ディスク マネジメント [33](#)
データ リプリケーション [37](#)
デフォルト ページ [29](#)
デフォルト ログイン [25, 27, 28](#)
電子メールの設定 [30](#)

と

ドキュメント
 参考資料 [5](#)
 前提条件 [5](#)
 表記規則 [6](#)
ドメイン [37](#)

ね

ネットワーク インターフェイス情
報 [30](#)

は

ハード ディスク ドライブ
 交換 [34](#)
 障害, インジケータ [34](#)
 障害, ミラー化 [17](#)
ハードディスクドライブ
 RAID 構成 [32](#)
パーティション [33](#)

ひ

表記規則
 装置の記号 [7](#)
 ドキュメント [6](#)
 本文中の記号 [6](#)

ふ

ブート順序 [33](#)
分散ファイルシステム [37](#)

ほ

ホスト設定プロトコル, DHCP と非
DHCP [21](#)
本文中の記号 [6](#)

み

ミラー化 [17](#)

ゆ

ユーザーおよびグループの許可 [36](#)

よ

要件

IP ネットワークと設定 [20](#)

ストレージ [20](#)

ら

ラピッド スタートアップ

使用 [29](#)

ラピッド スタートアップ ウィザー

ド画面, 図 [29](#)

ラピッド スタートアップ 設定確認

画面, 図 [30](#)

